

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290200078		
法人名	医療法人社団 有相会		
事業所名	グループホーム かしわい		
所在地	千葉県花見川区柏井町1132-1		
自己評価作成日	令和3年10月11日	評価結果市町村受理日	令和4年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和3年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた広い敷地で、天気の良い日はゆったりとした気持ちで散歩することができ、季節ごとの花々や木々の移り変わりを見ながら穏やかな生活を送ることが出来ます。
現在は新型コロナウイルス感染症対策として、ボランティアの訪問や敷地内託児室の子供達とのふれあい、中学生の職場体験、看護学生実習での交流は控えておりますが、季節ごとの行事や、毎月のお楽しみ会、誕生会をおこないながら日々の生活に楽しみが持てるよう工夫しています。
また、同法人に病院が併設されており、利用者様の急な体調変化にも迅速に対応することが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価者記入)】

理念でもある「穏やかな笑顔」の実践に向け、利用者が安心した気持ちで、その人らしく日常生活を送ることができるよう取り組んでいる。静かな環境を望む利用者には落ち着ける場所に誘導したり、居室のたんすの整理など利用者が望むこと、その人らしく過ごすことができるよう支援している。コロナ禍以前は盆踊りや地域の学校の学園祭など地域行事に参加していたが、現在はホーム内で、すごろくゲームや魚釣り大会などのお楽しみ会を開催している。毎月のイベント時には寿司やケーキなど利用者のリクエストメニューを提供するなど、利用者が楽しく過ごせるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「穏やかな笑顔」を理念とし、職員が常に目に入る所へ提示し、利用者一人一人が穏やかに過ごせるように支援します。	理念である「穏やかな笑顔」はホーム内に掲示しており、朝の申し送り時にも確認している。散歩時には好きな散歩コースを選んでもらったり、集団環境を好まない利用者には、静かな場所で過ごしてもらうなど、穏やかに過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策として、ボランティアや地域への参加は控えているが、近所の方から季節物の頂きものがあつたり、パン屋さんからおすそ分けして頂いたり、と可能な範囲で交流しています	地域住民とは、散歩時に挨拶を交わしたり、ホームの畑で収穫した野菜を近隣に届けるなど、顔を合わせる機会を多く持つように心がけている。コロナ禍以前には盆踊り、学園祭や中学校のコンサートなどに参加しており、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事も中止が相次ぎ、参加することが難しい現状ですが、散歩中は距離を保ちながら互いに挨拶を交わしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、民生委員、地域包括センター職員、家族の書類参加で3か月に一度推進会議を開催し地域の方や、家族の意見を聞きサービス向上に努めています。	コロナ禍においては書面での開催となっているが、町内会、地域包括支援センター、民生委員、家族等が参加し、3か月に1度実施している。「ご飯だけではなくパンも提供してはどうか」という意見から週1～2回パン食にするなど、意見の反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のオンライン研修会に参加したり、近隣のグループホームと連絡を取り、情報交換を行っています。	運営推進会議には地域包括支援センターからの参加があり、意見交換をおこなっている。市が主催する研修に参加しており、市とは連携することを心がけ、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止指針をホーム内に提示し、職員に周知しています。内部研修を行い、身体拘束を行わないケアを実践している。玄関も夜間以外は施錠しないようにしています。	利用者個々の一日の生活において、提供しているケアが身体拘束に該当しないかを、毎月のミーティング時に意見交換しながら確認している。鍵は夜間のみ施錠するなど身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束がもたらす多くの弊害、身体拘束廃止の継続を確認し、定期的に話し合いを持っている。身体拘束、虐待防止の研修機会がある際は参加しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を取り寄せるなどして、成年後見制度に関して理解を深めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分説明し、入居に関して家族が理解、納得して頂けるように連絡を取り合います。リスクや重度化、看取りについては指針に基づいて説明し理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1人1人への声掛けを大切に、1人にしないケアを行っており、利用者の思いの把握に努め、ご家族が面会時や、運営推進会議での意見や質問に答え、運営に反映できるように心がけています。	毎月利用者の様子について、写真を添えた手紙を家族に送付しており、意見や要望があればいつでも連絡するように伝えている。衣類の補充などについての意見を反映した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを行い、職員の意見を聞く機会を設け、朝の申し送り時に話し合うこともあります。	ミーティングに参加できない場合は、事前に検討したい事項についての意見を聞いており、ミーティングでは参加者が意見を述べる事ができる機会を設けている。資格取得の機会や試験前の勤務の調整など職員の意見に答え、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	学びたい事、興味のある事などを把握し、資格取得の機会や、試験に向けての日時調整をしています。向上心を持って働けるように応援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員からの希望を取り入れ計画的に研修を受ける機会を持ち、法人、およびホーム内で勉強会を推進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンライン研修や電話等を通じて近隣のグループホームなどと交流を持ち、サービスの向上に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者へ声掛けや見守りを行いながら、不安や困っている事へ早期に対応できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に1度・入居者さんの状況報告をして、面会時などに、ご家族の要望など伺いながら、苦情対応、状況説明に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の個性を大切に考え、困っている事や、不安に感じている事など、時間をかけて傾聴し、心情を探りながら、聞く機会を多く持つようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に寄り添い、家事作業も共に行ないながらたくさんのお話を聞き、互いに感謝したり、長所を褒めあったりした会話を増やしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係は、近況の認知症状等を情報提供し、その中で互いの思いを確認しあいながら、日常の支援をご家族と共に創っていかれるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	テレビ面会にて面会を実施しており、日常生活の中ではご家族の話など会話の中に入れ、若い時の話や、趣味、季節、地域の行事等の話を取り込みながら会話しています。	利用者や家族などから馴染みの人や場所などの情報を得ている。得た情報は記録や毎日の申し送り時に職員間で情報共有し、同郷の利用者同士で話す機会を設けるなど、支援に反映させている。コロナ禍においては、リモートでの家族との面会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や嗜好を把握して会話やレクに取り入れ、利用者同士が互いに楽しめるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院になられた方が戻ってこられるように本人や、ご家族の方と話し合いの場を設けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、ご家族の希望や、意向を伺いながら家庭的な雰囲気与生活できるように支援しています。	利用者の言葉が引き出せるよう、居室などで個別に話すようにしている。意思疎通が困難な場合は目があった時に話しかけたり、表情や仕草などから把握するようにしている。排泄や入浴の介助では、羞恥心に配慮して同性介助を基本としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ今まで過ごしてきた生活環境に近い暮らしができるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の小さな動作や心理面を見逃さないように情報を共有して支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとにし、職員の気づきを話し合った上で、介護計画を作成しています。また、定期的にモニタリングし変化が見られた際は計画の見直しするようにしています。	利用者、家族の意向、職員の気づきなどから介護計画を作成している。ケアマネジャー、居室担当、管理者などが日々の記録を基に定期的にモニタリングを実施している。日々の記録には利用者の介護計画を綴じており、職員が介護計画を理解しながら支援できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自個人ファイルに食事、排泄、保清、身体状況等を記録し、また、その日の様子を記録し情報共有しています、		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院等は家族と連絡を取り協力して行っています。入院時必要な物を持参し、面会はできない為電話で現状を確認し、本人が少しでも落ち着いて治療が受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議を通じて、各機関と連携を摂り、ご指導頂きながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人系列病院があり、医療面の連携、協力体制があり、利用者や家族の安心に繋がっている。又契約書にも必要時には(利用者の主治医または事業者の協力医療機関において必要な治療が受けられるよう支援します)と記載している。	系列病院から月1回往診してもらっている。以前からのかかりつけ医を希望する場合は、家族とも連携しながら対応している。週1回訪問看護が来所し、利用者の状況を確認したり、健康管理におけるアドバイスなどももらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護資格を有しており、体調管理や医療面での相談、健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や家族との相談のもと、早期退院に向けて対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の協力や希望があれば看取りについて契約時に説明している。過去に看取りの経験があり、スタッフ、利用者と共に見送る事が出来ました。協力病院、主治医、家族と相談しながら支援体制をとっています。	契約時には重度化・終末期ケア対応指針にそって説明している。利用者の状態が変化した場合は、その都度家族に連絡して意向を確認している。過去には、医師、訪問看護、職員、家族で情報を共有し連携しながら、看取りをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に緊急時の対応について研修を受け、各自が対応できるように定期的に勉強会を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火設備や警報設備が整い、消防署の指導を受けながら防災訓練を行っています。スタッフが手薄な夜間を想定した避難訓練について意識付けをしています。	年2回、地震、火災を想定した防災訓練を実施している。訓練では、消火器の使用方法、通報、利用者の誘導などをおこなっており、訓練後は内容について意見交換している。ホームの近くに自治会館や防災倉庫があり、町会長から災害時には地域も協力する旨の話がある。	昨今は、予想できない災害が頻繁に起きている。今後も引き続き、あらゆる場面を想定した訓練をおこなっていくことが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重について目のつくところに掲示し、スタッフは意識しながらケアにあたっています	利用者が安心して過ごし、その人らしい生活が送れるような支援に努めている。職員は、トイレ誘導時は小さな声での声かけ、利用者の気持ちを傷つけない言葉かけなどに配慮しており、日々自分のケアの在り方を振り返るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの理解力やコミュニケーション能力に合わせた声掛けを行い、常に主体性を尊重し、自己決定、または決めてもらえるような働きかけを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢となる散歩やレクの時にも個々の表情や状態などに気を配り、外出などの希望があるときにはすぐに対応できなくても約束して対応するように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣など介助が必要な方でも好みの物等本人の意向に沿うよう支援しています。希望により好みの髪形にカットしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが一緒に食事を摂ることは感染対策として控えているが、畑で収穫した野菜と一緒に調理したり、片付けを共にしている。	ホームの畑で収穫した野菜を調理したり、利用者の要望に応じてパン食の機会を増やすようにしている。毎月のイベントでは寿司や季節の果物など、利用者のリクエストメニューを提供しており、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握をし、食事形態などを工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きなど声掛けをして習慣づけ、磨き残しがないか確認しています。自分で難しい方はスタッフが介助しています。歯医者から定期的に口腔指導を受け実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、不快が軽減できるようトイレ誘導しています。	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。夜間帯も訴えがあれば、トイレでの排泄を支援している。午前、午後の体操や、個別に立ち上がり訓練をおこなうなど、下肢筋力低下を予防しながら、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便について記録し、水分摂取量のチェックや、日中は散歩や体操を取り入れて身体を動かすようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助が必要な方には、安全面に配慮しその方にあった介助方法を工夫しています。週3回の入浴が基本としていますが、希望があれば臨機応変に対応しています。	入浴は週3回午後支援しているが、希望により午前や夕方にも対応している。希望の湯温で、時間を気にせずゆっくり入ってもらうなど、入浴が楽しめるよう支援している。下着や衣類などは起床時や就寝時に発汗がある場合等はその都度交換して、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中の外気浴、散歩、テレビを活用したラジオ体操、午後から行うリズム体操、リハビリ体操、を動かす事により、穏やかな睡眠が得られるように支援しています。休息が必要な方には午睡を取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の内容、副作用等、スタッフが理解できるようにし、薬に対する状態の変化についてすぐに管理者に報告する体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭掃除、洗濯物を畳んだり、食器拭き等利用者自身が得意分野を発揮してもらえるように働きかけをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染対策として家族や地域の人と気軽に外出はできなくなっておりますが、散歩を毎日の日課、にして、外出の機会を増やし季節を肌で感じてもらえるように工夫しています。	散歩は毎日出かけており、外気浴なども取り入れている。コロナ禍以前には回転寿司やラーメンなどの外食に出かけたり、家族の協力で墓参りや法事などにも出かけている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したい意向がある方はお財布を持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は家族や友人に電話したり、手紙、絵葉書のやり取りをしている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのリビングにはゆったりとできるように家具を配置し、室温、湿度に配慮しています。又食堂からは外を眺める事ができ、密にならないよう席を工夫し室内は季節感を取り入れた飾りつけをしています。	集団で座れる場所、一人で座れる場所など、利用者の気分に応じて過ごせることを大切にしている。蛍光灯が眩しくないように、電気を部分的に点けたり、テレビの音量の調節など、利用者が居心地よく過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置し気の合った人と、ゆったりとおしゃべりをしたり、テレビを見たりして過ごしテーブル席では趣味活動や、レクやお茶をいただきながら過ごせる環境づくりをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みの制限は設けておらず、馴染みのものや、写真や、小物を置いて、心地よく生活できるようにしています。	利用者は使い慣れたタンスや馴染みの物、仏壇などを持ち込んでいる。家具や飾り物などは、利用者が取りやすい、見やすい位置に配置するなど配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や、歩行困難な方には、車椅子を用意し活動的に生活できるように工夫し安全面に配慮しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと